



Arita und Meissen
Erinnerungen an die
30-Jahrfeier

有田とマイセン、友好のきずな深まる。



有田町・マイセン市姉妹都市
提携30周年

Arita und Meissen
Erinnerungen an die
30-Jahrfeier



30th
Anniversary

有田町・マイセン市 姉妹都市提携
30周年記念事業



30th Anniversary

Arita und Meissen
Erinnerungen an die
30-Jahrfeier

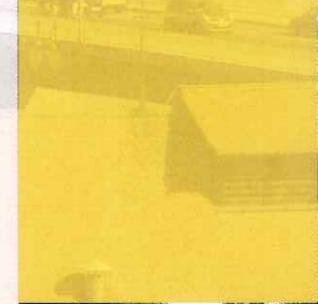
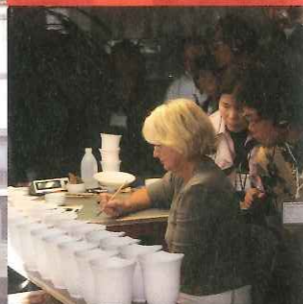


柿右衛門窯製作

国立マイセン磁器製作所
製作

C o n t e n t s

有田町長あいさつ	P 3
マイセン市長あいさつ	P 4
有田マイセン友好協会会長あいさつ	P 5
マイセン有田友好協会会長あいさつ	P 6
姉妹都市提携30周年記念事業	P 7
ワイン祭りパレードに参加	P 9
マイセンアートミュージアム 有田焼展覧会	P11
現地新聞に掲載された紹介記事	P13
マイセン訪問団、有田を訪問	P15
文化庁「地域文化芸術振興プラン」・佐賀県地域文化芸術振興プラン推進事業 有田マイセン姉妹都市30周年記念芸術文化交流 パレエ「白鳥の湖ハイライト」&ピアノ独奏	P16
マイセン市訪問参加者の感想	P17
マイセン市民団ホストファミリーの感想	P19
マイセン市訪問 マイセン市民団有田町訪問 スケジュール	P20
マイセン訪問団参加者名	P20
協力していただいた企業・団体	P21
陶都有田国際交流協会の紹介	P22



いつまでも素晴らしい
友好関係が続くよう
願っています

有田町長
岩永 正太



日本での磁器発祥の地「有田」と西洋における磁器発祥の地「マイセン」。遠く離れた地でありながら、「磁器」がもたらした縁により30年前の1979年2月9日に姉妹都市調印がおこなわれました。以来多くの人たちが姉妹都市間を行き来し、各種の交流やイベントをおこないました。

有田町では、町民の憩いの場となった「マイセンの森」の整備、県立九州陶磁文化館の来館者を和ます「マイセン磁器冠火喰鳥」と「マイセンの鐘」の設置。マイセン市では、「有田の森」の建設、桜の木を記念植樹した「有田通り」の命名、近年では有田焼の陶板を贈り博物館周りに設置してもらいました。

これまで多くの窯業関係者が互いに訪問し作品展をおこない、「磁器でつながった絆」を強めてきました。また、有田とマイセン双方の友好協会による青少年友好使節団の相互派遣も19回を数え、多くの子供たちが有田とマイセンの架け橋になってくれています。

今回の30周年記念事業は、市町村合併により誕生した新生「有田町」として最初の周年イベントとなり、お互いの街を舞台に、さまざまな記念事業をおこないました。

まず、柿右衛門窯とマイセン磁器製作所が製作した「磁器製雛人形」の競演で記念事業がスタートしました。2009年2月の「有田雛のやきものまつり」では、世界に誇る両名窯の雛人形を一堂に展示し、見る人に感動を与えました。

9月のマイセンワイン祭りには、有田町から総勢50名がマイセン市を訪問。書道、茶道、絵手紙などの実演、三味線や和太鼓の演奏などで祭りを盛り上げました。ワイン祭り最終日のパレードでは、訪問団が市内を有田皿山節で華やかな踊りを披露し、沿道を埋め尽くした観衆から盛大な拍手をいただき、大きな感銘を受けました。

訪問期間中から開催されたマイセン磁器製作所内美術館での「有田焼展覧会」では有田陶芸協会会員の作品45点が記念事業に華を添えました。

11月には、マイセン市から23名が来有。市長をはじめマイセン市民全員が町内にホームステイし町民との交流を深め、また5名のマイセンバンドは町内のいたるところで演奏し、「秋の有田陶磁器まつり」に彩りを添えてくれました。

このような心かよい合う素晴らしい記念事業になりましたのは、オラフ・ラッシュケ市長をはじめ、マイセン市民の皆さん並びに有田町民の皆さん、そして準備作業から実施に至るまでお手伝いいただいた関係者の皆さんのご理解とご協力の賜物です。心から感謝申し上げます。

今後もますます絆が深まり、いつまでもこの素晴らしい関係が続くことと、両市町の益々の繁栄を祈念して、姉妹都市締結30周年のご挨拶とさせていただきます。

30年前の1979年2月9日姉妹都市提携調印の日、マイセンと有田の人々は、今日のような親しく活気のある友好関係に発展するとは想像できなかったでしょう。

姉妹都市を結んだ最初の10年間は、ドイツ民主共和国(旧東ドイツ)政府によりさまざまな制約がありました。しかし、20年前(1989年)のドイツ統一により国境が開放され、マイセンと有田の関係は目を見張るような友好関係が築かれていきました。このことを例えると、1979年に築かれた土台に、1989年から石材を積み上げ、両市を結ぶ『友好の家』が出来上がってきたと言えるでしょう。

基礎になっているのは何百年前から延々と続いている伝統的な陶磁器文化です。有田は日本の磁器発祥の地であり、同時にヨーロッパでの最初の磁器生誕のきっかけになりました。当時の王侯貴族が競い合って収集した、いわゆる『白い金』が、1979年の姉妹都市提携調印の発端でした。

150年前から存在しているドイツと日本の関係年譜に「鉄のカーテンの解体とバブル経済の崩壊により、両国政府の姿勢が変わり、お互いの興味が薄れてきました」と記されています。しかし、私たちの友好関係はこれとは違い、ますます強固なものになりました。最近ではインターネットなどの連絡手段が向上し、経済的な関係も構築されようとしています。それにより今まで以上、お互いへの興味や好奇心が旺盛になりました。

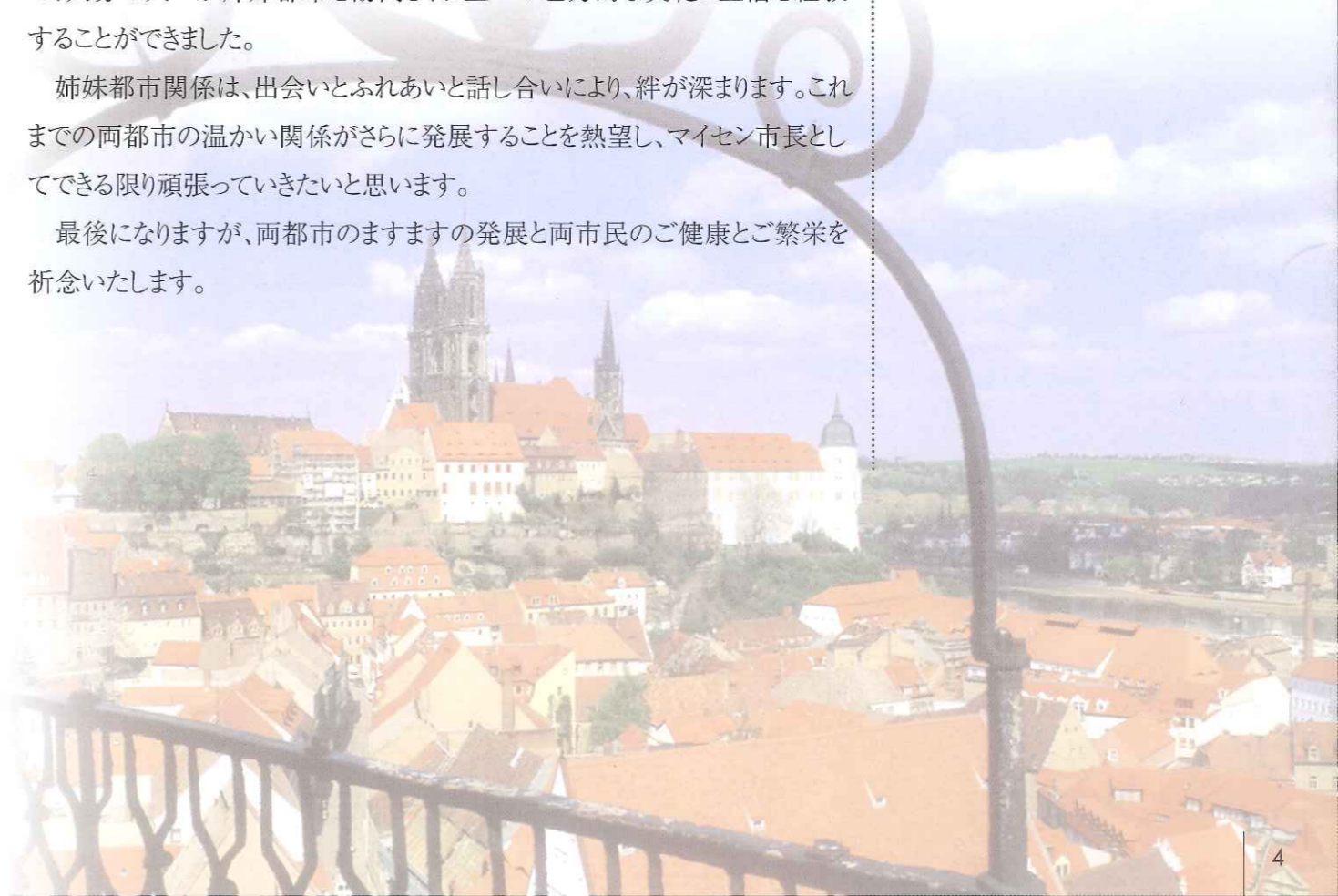
姉妹都市への強い思いにより、1994年に有田とマイセンのそれぞれに友好協会が設立されました。友好協会の尽力で相互派遣交流事業が継続され、これまで350人を超える青少年が訪問交流に参加しています。私を含めて、大勢の人々が姉妹都市を訪問し、お互いの魅力的な文化と生活を経験することができました。

姉妹都市関係は、出会いとふれあいと話し合いにより、絆が深まります。これまでの両都市の温かい関係がさらに発展することを熱望し、マイセン市長としてできる限り頑張っていきたいと思っております。

最後になりますが、両都市のますますの発展と両市民のご健康とご繁栄を祈念いたします。

両都市の関係が
ますます発展するよう
さらなる交流を

マイセン市長
オラフ・ラッシュケ



30周年 記念事業を 終えて

有田マイセン友好協会会長
手塚 英樹



「日本の有田から姉妹都市30周年を祝って 50人の皿踊り隊がやって来ました」

パレードで司会者から紹介されると、雲ひとつない青空の中、皿の音と大きな拍手が響きわたった。皿踊り隊全員が「来て良かった」と実感しながら「マイセン市の皆さん、ありがとうございます」と笑顔いっぱい踊り歩いた。

有田ギャラリー、有田スタンド、そしてこのパレードと皆さんのご協力によりマイセンでの30周年記念事業を無事成功のうちに終えることが出来ました。

出発前には新型インフルエンザや長時間のフライトの疲れなどいろいろと心配していた事が嘘のように、メンバーはそれぞれの持ち場で大活躍していただきました。

有田のメンバーは、まるで有田町内で買い物しているかのように、通訳なしでいろいろな店を回ったり、レストランで食事したりと、たくましく過ごしていました。

今回の団員の中には20周年、25周年の訪問事業経験者が数多く参加していただいた事は何よりも心強いものでした。

さて、このように楽しく過ごせたのもマイセン市役所、マイセンの友好協会メンバーのお陰であり、マイセン市民の友情であります。それぞれの皆さんに感謝にします。

11月には30周年のお祝いにマイセンから、秋の陶磁器まつりにお越しいただきました。

マイセンのワイン祭りはいつも街角で音楽が流れています。秋の陶磁器まつりでは、マイセンバンドの方々のご協力により、ワイン祭りの再現のように街中で音楽を演奏してもらいました。また訪問団全員がホームステイで有田に宿泊。これは今までの交流の中でも初めての試みでしたが、マイセン市と有田町が家族になったと実感できる交流でした。

「300年前の陶磁器を通しての交流」、「7人の侍といわれる先輩達の交流」、「20年続く青少年相互交流」、「ワイン祭りでの交流」、それぞれの歴史と携わった人々が姉妹都市30年を支えてもらいました。

遠くても心温かい姉妹都市マイセン。30周年記念事業を胸に刻み、さらなる交流の輪を広げて行きたいものです。

姉妹都市交流における記念すべき1年が無事に終わりました。2009年は有田とマイセンの姉妹都市締結30周年記念となり、さらに2010年はマイセンでの磁器生誕300年の記念の年となります。つまり、2つの誕生日を相次いで迎えることになりました。

日本とドイツは歴史的、文化的、そして経済的にも、友好関係に深く関与してきました。有田とマイセンは交流を深め、将来への進展を目指すために、5年置きに周年事業を続けていますが、この事業を通じて友好関係を温めることが最も大切です。それぞれの異なった意見や文化を共有しながら、お互いを思いやることで、より親密な友好関係につながります。

有田とマイセンの姉妹都市交流は、市民レベルで発展してきたと言っても良いと思います。例えば、1993年からこれまで、350人を超える青少年がお互いの都市を訪問しました。これはそれぞれの友好協会のメンバーをはじめ、ホームステイ先の家族の協力のおかげです。

この春、19回目の青少年訪問交流が行われ、今年是有田からマイセンへ訪問する年となっています。少ない予算ですが、毎年訪問事業を続けてきたのは、姉妹都市交流の大きな軸と考えてきたからです。

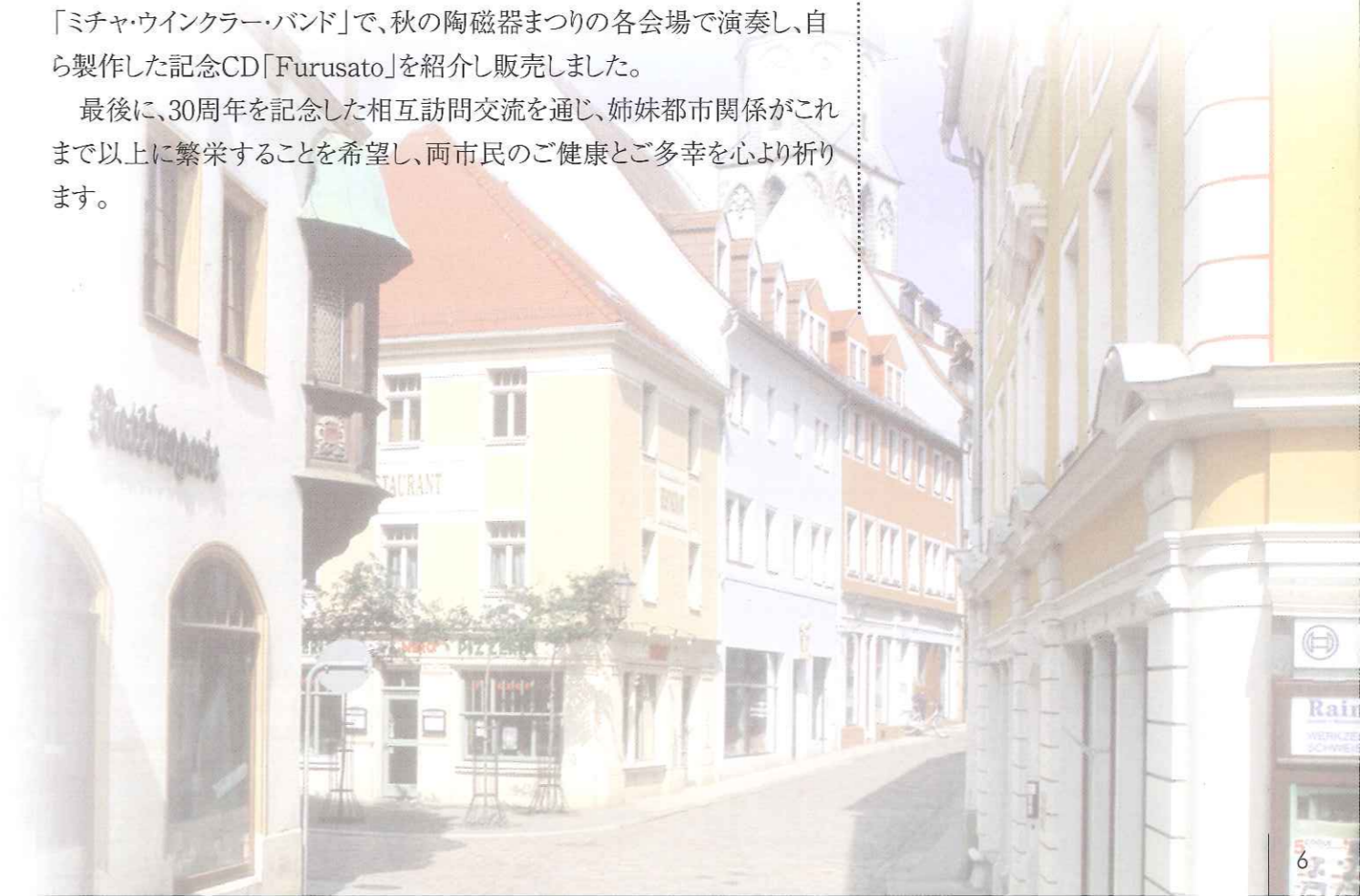
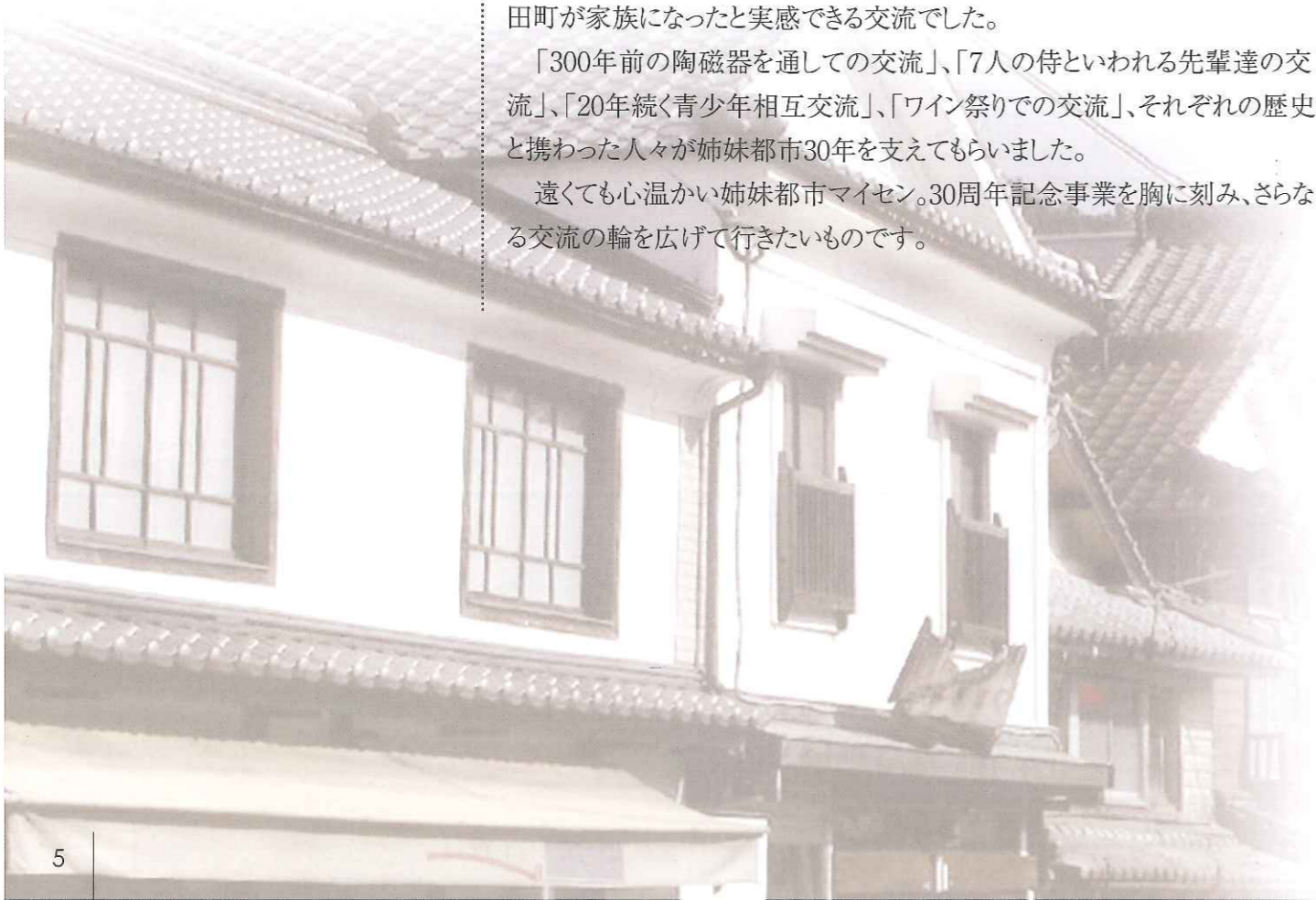
9月のワイン祭では相互交流を深めました。有田の訪問団50人がマイセン旧市内の店舗で開催した「有田ギャラリー」で、太鼓や折り紙などの日本文化を紹介してくれました。パレードでは皿踊りを披露し、観衆をうっとりさせてくれました。また、重要な記念事業としてマイセン磁器製作所での有田焼の展示を行い、有田焼の芸術品と日常食器にマイセン市民が大きな興味を示していました。

11月には市長とマイセン郡長を含む23人が有田を訪問し、全員がホストファミリー宅に泊まり、親密な交流を深めました。この訪問団に同行したのは「ミチャウインクラールバンド」で、秋の陶磁器まつりの各会場で演奏し、自ら製作した記念CD「Furusato」を紹介し販売しました。

最後に、30周年を記念した相互訪問交流を通じ、姉妹都市関係がこれまで以上に繁栄することを希望し、両市民のご健康とご多幸を心より祈ります。

ユニークな 姉妹都市交流 「親交と人」

マイセン有田友好協会会長
カイ・レオンハルト





有田屋台



有田店を訪問された神余在独大使(左)



ワイン女王

姉妹都市提携30周年を記念して、岩永正太町長を団長とする総勢50名の訪問団がマイセン市を訪れました。9月18日から20日までおこなわれた同市最大のイベント「マイセンワイン祭り」に合わせた訪問。期間中は市内の一角に「有田店」を設置し、書道やちぎり絵、ろくろや絵付け実演、三味線や和太鼓の演奏をおこなうなど、日本や有田の文化を紹介し市民との交流を深めました。

有田とマイセン、30年の友好に笑顔で乾杯。



ちぎり絵実演



記念製作した
ピアグラス・皿踊り皿・うちわ



書道実演



ろくろ実演



磁器製折り紙実演



和太鼓演奏



三味線演奏





マイセンの伝統行事、ワイン祭り……

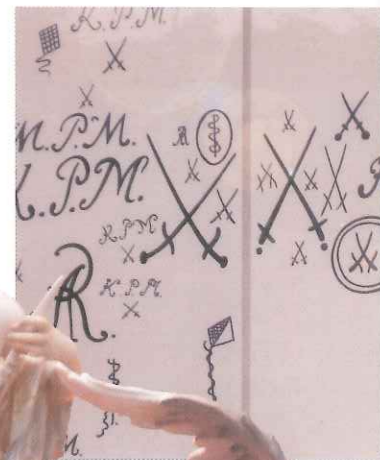
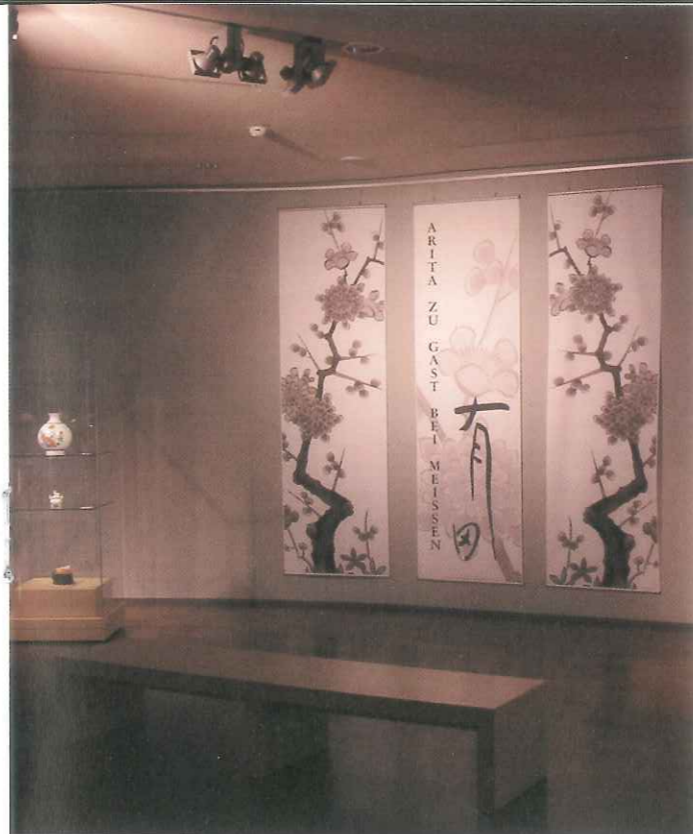
ワイン祭りのメインイベントであるパレードには、揃いの法被・浴衣姿をした皿踊り隊を編成し参加しました。当日は好天に恵まれ、沿道に集まった5万5千人の観衆から喝采を受けながら、約2kmの市街地を有田皿山節で練り歩きました。

パレードで、一際注目を集めた有田の皿踊り。





マイセン磁器製作所
ルッツ・リヒターCEO(左から2人目)



中世から結びつきの深い、陶都有田とマイセン。

姉妹都市提携30周年を記念して、マイセン磁器製作所美術館で有田焼の展覧会が開催されました。9月17日のオープニングセレモニーを皮切りに約2カ月間開催され、有田陶芸協会会員45名の作品が展示されました。美術工芸品だけでなく、コーヒーカップや皿などの日常食器も展示し、有田焼の新たな一面を紹介しました。



…ゆかりの地で有田の美を紹介。



ドイツ、マイセンアートミュージアムに有田焼展覧会のため美術工芸品を有田から空輸。



有田焼展覧会の開催されるドイツ、マイセン磁器製作所美術館に、オープンに合わせて、展示のための作品、45点を一点一点丁寧に梱包して航空便で搬送しました。

